



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

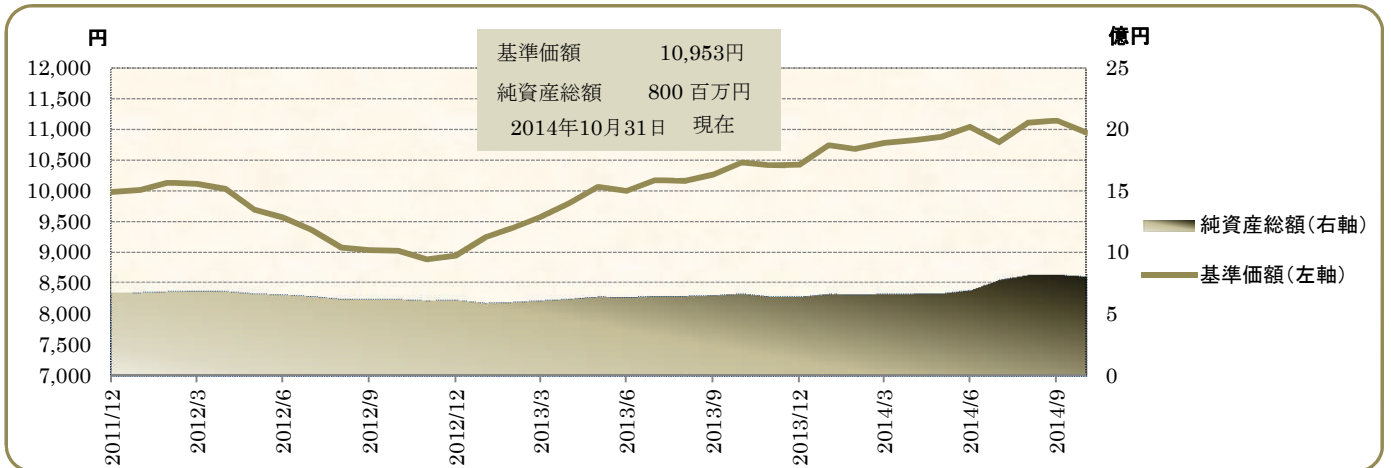
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2014年10月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

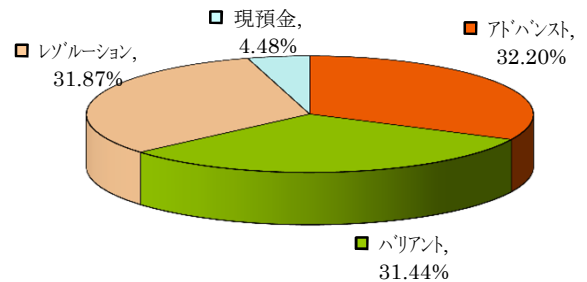
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%			5.07%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%
2012	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.28%	1.22%	-0.21%	-0.83%	-3.36%	-1.32%	-2.12%	-3.02%	-0.45%	-0.17%	-1.51%	0.66%	-10.40%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2014年10月31日	
基準価額:	10,953円	対前月比 -193円
純資産総額:	800百万円	対前月比 -14.1百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	1.50%
基準価額騰落率	6ヶ月	1.21%
設定来	ファンド	9.53%
基準価額騰落率	TOPIX	84.32%
	日経平均	95.36%

投資対象ファンドへの資産配分 (2014年10月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%			6.98%
ウイズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%			5.00%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%			15.23%
アドバンスド	3.59%	1.01%	0.60%	2.15%	1.23%	2.72%	-1.24%	3.30%	-0.11%	0.03%			13.96%
ハリアント	7.64%	0.92%	3.59%	3.63%	1.89%	5.28%	-2.17%	2.07%	0.65%	-0.96%			24.52%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウイズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%
アドバンスド	7.06%	6.89%	2.79%	6.39%	5.21%	4.71%	4.15%	0.84%	1.20%	1.91%	-2.71%	1.61%	47.65%
ハリアント	11.36%	2.57%	1.43%	14.44%	7.46%	1.93%	3.77%	0.67%	0.51%	3.33%	-5.39%	3.07%	53.66%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

* アドバンスドとハリアントの騰落率は、2014年6月以前はJPY-Sクラス、2014年7月以降はJPY-Fクラスの騰落率です。年初来の収益率は月次収益率を時間加重したものです。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

10月の株式相場は、前半軟調、後半反発、月末に一気に上昇の展開で、月を通じては日経平均で1.48%上昇の16,413.76円、TOPIXで0.55%上昇の1,333.64ptとなりました。2か月連続で年初来高値を更新しました。

前半は、米国の量的緩和終了やエボラ出血熱患者の感染拡大に対する警戒感などが投資家心理を悪化させ、円高株安の動きとなりました。ドル円は9月末の109円台半ばから一時105円台まで円高が進み、日経平均は9月末比で10%以上下落し、10/17には今年5月来の14,500円台をつけました。

しかし後半は、米国の予想を上回る経済指標を受けて米国株が反発したことや、「GPIFが国内株式の運用比率を12%から20%台半ばに引き上げる方向で調整」という報道などを受けて株式相場は切り返す展開となりました。

さらに月末31日に開かれた日銀の金融政策決定会合において、量的・質的緩和の拡大が決定されたことを受けて日本株は急騰、1日で700円を超える上げ幅を記録し、一気に9月末の株価水準を上回りました。ドル円も112円台まで円安が進みました。

東証一部の1日当たり売買代金は、9月に続いて2か月連続で2兆円を上回りました。

需給面では、第4週までに外国人が2か月ぶりに売り越しとなりました。また、信託銀行が6か月連続の買い越しとなり、個人投資家が2か月ぶりの買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、水産・農林、不動産、陸運、食料品などの内需業種が上位となり、鉱業、ガラス・土石、非鉄金属、石油・石炭製品等の資源関連が下位となりました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

10月の株式市場は、先月に続き小型株の劣位に推移しましたが、特に月末に向けて大きく相場が反転した中で、大きく出遅れる結果となりました。加えて、バリュエーション銘柄が劣位となり、局地的に高バリュエーション銘柄の上昇が見られました。

ポートフォリオは、医薬、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、小売セクターを大きくアンダーウェイトとしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

業績の安定拡大が続く日本管理(3276)のロングや過大な期待があったインフラ企業のショートなどがプラス寄与し、テクノロジー小型株や新興市場のサービス小型株のロングがマイナス寄与となりました。ショート銘柄のプラス寄与が少なく、小型株の低調さが見られました。短期間での極端な小型株劣位は、年に1度あるぐらいの特殊な状況と言えます。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

外部環境のリスクを意識しながらも、底堅い相場展開となっています。

極端に売買回転率の高い銘柄が買われるような、ファンダメンタルから乖離した値動きは修正されつつありますが、一方で割安株を買う動きは限定的なものとなっています。

先月までの極端な小型株劣位の状況は、日銀のETF買いの対象外になっている背景があるものの、バリュエーション面や成長性の観点から、いずれ修正されるべき銘柄については見直されるものと考えます。

しばらくは、第2四半期決算の内容により大きな株価変動も想定され、表面的なバリュエーション格差が拡大するものと想定します。

引き続き、来期業績を考慮した、定性的なプレミアム付与が可能なグロース性を重視した銘柄選別を行います。業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大余地の大きい割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

【アドバンスド】

〈ファンド運用状況〉

10月の運用成績はJPY-Fクラスで0.03%でした。好業績の内需株は好調なパフォーマンスとなる一方で、世界景気の先行き懸念から日本株のポジション調整とみられるフローが見られ、外需割安株は総じてアンダーパフォームとなり収益を押し下げました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションではJR東日本(9020)、ファーストリテイリング(9983)、ショートポジションではファナック(6954)、京セラ(6971)がプラス収益に寄与しました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

11月の株式市場は高値圏でのみあいを予想します。日銀による追加緩和とGPIFの資産構成見直しの連携により一旦は高値を試す展開を予想しますが、その後は個人消費や企業業績見通しの改善を睨みながら適正な株価水準を探る相場展開を予想します。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用したファンダメンタルズ分析に加え、ペアトレーディング戦略、インデックス入れ替えに伴うイベントドリブン戦略による銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【バリエント】

〈ファンド運用状況〉

10月の運用成績はJPY-Fクラスで-0.96%となりました。10月中旬以降のリバウンド局面でショートの高通信株や食品株が相対的にアウトパフォームしたことや、保有する中小型株がアンダーパフォームしたことがマイナスの要因となりました。

セクター別の損益は、電機、サービス、薬品セクターでプラスとなり、情報通信、輸送用機器、食品セクターでマイナスとなりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

11月の株式市場は堅調な相場展開を想定します。追加金融緩和により円安傾向が強まっていることや、国内景気も好転の兆しが出てきていることから、好業績銘柄を中心に上昇基調が続くと考えます。また裁定残高が10月に大幅に減少したことや、日銀のETF買い入れにより株式需給が改善することも株価のサポートになると考えられます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。